

栽培種目：クリスマスローズ

クリスマスローズの種とり及び育苗

氏 名：古幡 史朗

〈要約〉

1. クリスマスローズの紹介
 - (1) 名前の由来
 - (2) 個性の豊かな花
 - (3) 原種
 - (4) 育て方
2. 育成のポイント
 - (1) 種とりの時期及び種まきの時期
 - (2) 種まき、育種の経過観察
 - (3) 育苗箱及びポット使用の相違
3. 親の顔が見たい？
4. 今後の育種、育苗及び目標

1. 初めに

クリスマスローズの紹介

(1) クリスマスローズの名前の由来は、クリスマスの頃にバラのような花を咲かせると言う事からこの名前が出来ました。学名は「ヘレボラス」と言い、本来、クリスマスローズと呼ばれるものは早咲きの「ニゲル」を指し、2~4月に咲くものは「レンテンローズ」と呼ばれています。ヨーロッパではその黒い根に魔力があると信じられ、古代ギリシャ時代には狂気を治す霊薬の一つと考えていました。

(2) 個性の豊かな花が多く、株ごとに異なるほど多様な種類があります。クリスマスローズは原種と交配種に大別され、太い茎が立ち上がって葉の先に花をつける「有茎種」と株の根元から花茎や葉を伸ばす

「無茎種」に分類されます。

- (3) 原種は地中海沿岸諸国、西アジア、中国などの地域に分布しています。クリスマスローズは、その地域に適応した原種として生育してきました。
- (4) 育て方としては、基本的に丈夫で育てやすく秋から春にかけて生長し、夏には半休眠状態になります。この生育タイプを理解すれば簡単に育てることが出来ます

2. 方法

育成のポイント

(1) 種とりの時期及び種まきの時期について、開花期の終わった5月頃にできた種子に茶漉し袋をかぶせて、種とりをします。すぐに直播する方法と夏越しをして秋の9月頃にまく方法がありますが、今回は土中にて保存し、秋にまく方法を試してみました。

18年5/19袋かけ → 6/26種とり



6 / 2 6 保存 → 1 1 / 1 5 種まき



(2) 種まき、育種の経過観察は、朝夕の水やりと日光浴を欠かさずやりましたが、人類と同じで、同じ親株から採取した種なのに、育ち方に著しい相違がありました。
芽出しの時期は大体同じでしたが時がたつにつれ生長の度合いがバラバラになりました。

' 1 9 年 1 0 / 1 7 ' 1 9 年 2 年



' 1 9 年 3 年 生

1 年 ・ 2 年 ・ 3 年



しかし、育苗、育成の段階を観察してゆく内に育成が遅れている苗もそれなりに生育しています。又、クリスマスローズの花の種類により発芽率、発育状況が違うことが解りました。

(3) 育苗箱及びポット使用の相違につ

いて、品種を問わず増殖するだけの場合は育苗箱にばら撒きでもかまいません。しかし、さまざまな品種に挑戦する場合は親の履歴とポットにて育苗することが良いと思われます。鉢上げが楽です。

3. 結論 親の顔を見たい？

カラーリーフ
' 1 8 ・ 1 2 / 3 1

シモザワ W 白



' 1 9 年 1 0 / 1 7

マスオクリーム W



' 1 9 年 8 / 3 1 種まき → 1 1 / 2 5



4. 今後の育種、育苗及び目標

- 1) 千葉大学の学生の卒業によるクリスマスローズの払い下げから始まった育成も早や5年、1年度は見よう見真似で増やしてきました。
- 2) ところが、親からの履歴の管理が甘くて親の顔がほとんど分かりません。2年目より、咲いた親の記録と種とりの履歴をチェックしながら育苗を管理するようになりました。
- 3) チューリップフェスティバル、農業まつりなどに出品するようになり、苗の段階でもどう云う花が咲くのか説明できないとなかなか売れません。
- 4) 結局、市販より安いということで何とか販売してきました。
- 5) 今後は、市販されているものから、あまり出回らない品種を増やすことにしました。
- 6) 一昨年より、毎年、池袋サンシャインで1月に開催されている「クリスマスローズ展」で新種、貴重品など購入し、増殖を進めて行きます。
- 7) 今後の研究品種は以下のとおりです。
 - ・今後流行すると思われるもの
 - －多小花弁「プチドール」
 - ・休眠期の夏に葉でみせる
 - －「カラーリーフ」
 - －「ゴールデンリーフ」、
 - －「スターダスト」 など
 - ・中国の内陸部（長安など）自生
 - －無茎小花の集合体「チベタヌス」

チバゴールド



カラーリーフグリーン



ステルニ-ネオゴルト7



カラーリーフゴールデンリーフ



以上